

表1 外用薬の基剤による分類 (文献⁵⁾より筆者作成)

分類		基剤の種類		外用薬 (代表的な製品を示す)
疎水性基剤	油脂性基剤 (創面の保護作用)	鉱物性 (ワセリン, 流動パラフィン)	白色ワセリン プラスチックベース	亜鉛華軟膏 アズノール [®] 軟膏 プロスタンディン [®] 軟膏
		動植物性 (植物油, 豚脂, ろう類)	単軟膏 亜鉛華軟膏	
親水性基剤	乳剤性基剤	水中油型: O/W (水分の供給)	親水軟膏 パニングクリーム	オルセノン [®] 軟膏 ゲーベン [®] クリーム
		油中水型: W/O (創面の保護作用)	吸水軟膏 コールドクリーム 加水ラノリン 親水ワセリン 精製ラノリン	リフラップ [®] 軟膏 ソルコセリル [®] 軟膏
	水溶性基剤 (水分の吸収作用)	マクロゴール軟膏	アクトシン [®] 軟膏 アラントロックス [®] 軟膏 カデックス [®] 軟膏 プロメライン軟膏 ユーバスタコーワ軟膏	
	懸濁性基剤	ハイドロゲル基剤 FAPG 基剤	ソフレット [®] ゲル	

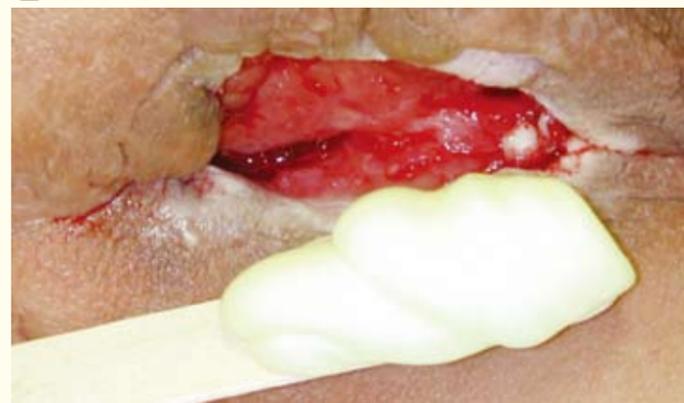
※ FAPG: 脂肪酸アルコールプロピレングリコール

仕上げ段階の外用薬による治療

仕上げ段階の赤色期・白色期においては, moist wound healing を目的として, 創の保護, 保湿作用を有する油脂性基剤や水分含有率の低い油中水型乳剤性基剤の外用薬で創を厚めに被覆し, 創の

湿潤環境を維持するのが基本です¹⁾ (図2)。また, 創によっては, その性状に合った基剤の外用薬を選択することも求められます^{1, 2)} (表1, 図3)。

A オルセノン[®]軟膏の塗布



B リフラップ[®]軟膏を用いた被覆



図2 外用薬による湿潤環境の維持

たとえば, トレチノイントコフェリル (オルセノン[®]軟膏) やリゾチーム塩酸塩 (リフラップ[®]軟膏) などの外用薬を直接あるいはガーゼに厚くのぼして創を被覆することで, 湿潤環境を維持する

depth (深さ) D→d	necrotic tissue (壊死組織) N→n	inflammation / infection (炎症 / 感染) I→i	exudate (滲出液) E→e	granulation tissue (肉芽形成) G→g	size (大きさ) S→s	pocket (ポケット) P→(-)
外用薬				アルクロキサ アルプロスタジンアルファデクス		
				酸化亜鉛 ジメチルイソプロピルアズレン		
			カデキソマー・ヨウ素			
			スルファジアジン酸 (滲出液が少ないとき)			
			デキストラノマー	デキストラノマー		
					トラフェルミン (滲出液が少ないとき)	
				トレチノイントコフェリル (滲出液が少ないとき)		トレチノイントコフェリル (滲出液が少ないとき)
			フラジオマイシン硫酸塩・結晶トリブシン		ブクラデシンナトリウム	
			プロメライン			
			ポビドンヨード			
				ポビドンヨード・シュガー		
			ヨウ素軟膏		幼牛血液抽出物	
			ヨードホルム			
					リゾチーム塩酸塩	

推奨度 B 推奨度 C₁ 推奨度 C₂

< 推奨度の分類 > A: 十分な根拠があり, 行うよう強く勧められる C₂: 根拠がないので, 勧められない
 B: 根拠があり, 行うよう勧められる D: 無効ないし有害である根拠があるので, 行わないよう勧められる
 C₁: 根拠は限られているが, 行ってもよい

※ 根拠とは臨床試験や疫学研究による知見を指す
 注) 臨界的定着が疑われる場合, 外用薬ではカデキソマー・ヨウ素, ポビドンヨード・シュガー, ヨウ素軟膏, スルファジアジン銀を用いてもよい (推奨度 C₁)

図3 深い慢性期褥瘡 (D) のときのDESIGN[®]に準拠した外用薬の選択 (文献⁶⁾を基に作成)

外用薬は50音順に記載

創の状態に応じた外用薬の選択

具体的には, 創の保護・保湿作用を有する油脂性基剤の外用薬, たとえばプラスチックベースを基剤とするアルプロスタジンアルファデクス (プロスタンディン[®]軟膏) が第一選択です。また, 創が乾燥しているときには, たとえば水分含有量の多い水中油型乳剤性基剤のトレチノイントコフェリ

ル (オルセノン[®]軟膏), 反対に滲出液が多い, あるいは浮腫状のときには, たとえば吸水性の高いマクロゴールを基剤としたブクラデシンナトリウム (アクトシン[®]軟膏) を選択します (図4)。創の湿潤環境が維持できている場合は, 水溶液ではありませんが, ヒト bFGF (塩基性線維芽細胞増殖因子) 製剤のトラフェルミン (フィブラスト[®]スプレー) を用いてもよいでしょう^{1, 2, 7-10)} (図5)。